| 科目名 | 講　師 | | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 医療安全 | | | 時間数 | 15 |

科目目的　:医療現場には様々な危険があることを認識し、患者の安全のために必要な基礎的知識を学ぶ。

科目目標　:1. 看護業務や技術における危険認識と危険回避の判断が理解できる。
2. 医療事故の事例を検討し、安全な医療を提供するために事故を防止する具体的な方策を理解できる。

| 講義回数 | 学　習　内　容 | |
|---|---|---|
| 1・2回 | 医療安全とリスクマネジメントの概念 | 1）医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向<br>2）医療におけるリスクマネジメント<br>3）医療事故防止の考え方<br>4）医療事故に対する倫理と法的問題 |
| 3～5回 | 医療のリスクマネジメントのプロセス | 1）リスクマネジメントのプロセス<br>2）リスクの把握の方法<br>3）リスクの分析<br>4）リスクへの対応<br>5）事故発生時の対応　PARM<br>6）看護におけるKYT(危険予知トレーニング)（演習） |
| 6・7回 | 医療事故事例から学ぶ | 1）起こりやすい医療事故事例とその対策（演習）<br>2）事故報告書 |
| 評価 | 筆記試験 | |
| テキスト | 系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践[2」医療安全　（医学書院） | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 講 師 | | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 災害看護 | | 霧生 緑 他 | 時間数 | 15 |

科目目的 :災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解し、災害時における看護の役割を学ぶ。

科目目標 :1. 災害や災害看護の基礎的知識および災害看護活動を理解できる。
2. 防災訓練の参加にすることにより、看護者としての防災意識を高める。

| 講義回数 | 学 習 内 容 | |
|---|---|---|
| 7回 | 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識 | 1)災害・災害看護の定義<br>2)災害の分類<br>3)災害サイクル<br>4)災害関連の法・制度<br>5)救援体制と提供されるサービス<br>6)救助活動・救急医療活動<br>7)災害看護における倫理的課題 |
| | 2.災害各期における看護支援活動 | 1)災害時に看護が果たす役割<br>2)災害各期における看護活動 ※災害直後における役割<br>3)災害関係諸機関との連携<br>4)災害医療とトリアージ<br>5)被災者と援助者の心のケア |
| | 3. 防災訓練参加 | 1)災害チームにおける看護師の役割<br>2)救護所の設営、搬送<br>3)応急処置、心肺蘇生法<br>4)トリアージ<br>5)災害関係機関との連携 |
| | 4. 災害看護と国際協力 | 1)災害看護分野の国際協力<br>2)災害時に活動する国連関連機関<br>3)災害時に活動するNGO<br>4)国際災害救援と危機管理<br>5)災害看護と異文化理解 |
| 評価 | 筆記試験、防災訓練参加状況 | |
| テキスト | 系統看護学講座 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院) | |
| 備考 | 防災訓練参加 | |

| 科目名 | 講　師 | | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 看護管理 | | 小森　うめの<br>他 | 時間数 | 30 |

科目目的　：　看護の機能、看護師の役割を遂行するために看護管理の基礎を学ぶ。
科目目標　：1. チーム医療、看護のマネージメント能力、組織について理解できる。
2. 管理をする上で看護に関する法的制度や仕組みを理解できる。
3. 看護者に必要な看護倫理について、倫理を考え倫理的課題の対処について考えることができる

| 講義回数 | 学　習　内　容 | |
|---|---|---|
| 1回 | 1. 社会の変化と看護職の役割 | 1）人々の生活と看護の関わり　2）日本の看護職の活動の変遷 |
| 2回 | 2. 協働：他者と共に活動すること | 1）チームを効果的に機能させる　2）ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ、ﾌｫﾛｰｼｯﾌﾟ |
| | | 3）チームの一員に求められる協働のための行動 |
| ～ | | 4）継続看護のための協働 |
| | | 5)市民・多職種との協働　他 |
| 5回 | 3. 看護現場に影響を与える制度と法律 | 1）看護マネジメントに関係する主な法律 |
| | | 2）看護に関する医療・介護制度 |
| 6回 | 4. セルフマネジメント | 1）健康的な働き方 |
| | | 2）ヘルスリテラシー |
| | | 3）メンタルヘルス |
| | | 4）からだの健康を保つ |
| | | 5）時間の管理 |
| 7回 | 5. 看護の質向上のための取り組み | 1）看護組織の活動と倫理 |
| | | 2）患者の倫理擁護 |
| | | 3）看護職の倫理綱領、看護職の倫理的行動 |
| 8回 | 6. 看護マネジメント | 1）看護マネジメントとは　看護マネジメントのプロセス |
| 9回 | 7. 組織で取り組む看護活動 | 1）組織とその構造・機能 |
| | | 2）分業と協働のしくみ |
| ～ | | 3）サービスマネジメント、働く人を生かすマネジメント |
| | | 4）モノの管理、情報の管理、カネの管理 |
| 10回 | | 5)非常時の備え |
| 11回～12回 | 8. 看護と経営 | 1）看護と経営　2）看護活動と経営 |
| | | 3）医療保険制度の概要　4）医療報酬制度 |
| 13回～14回 | 9. 看護の質向上のための取り組み | 1）医療安全 |
| | | 2）医療・看護の質改善 |
| | | 3）組織改善の方法 |
| | | 4）多重課題における対処 |
| | 10. 看護専門職とキャリア | 1）専門職とは　2）看護専門職としてのキャリア |
| | | 3）看護職の生涯学習　4）看護管理に必要な能力 |
| 評価 | 筆記試験 | |
| テキスト | ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　（メディカ出版） | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 講　師 | 二宮　恵美 | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 看護研究 | | | 時間数 | 15 |

科目目的　：　看護研究のプロセスを理解し、ケーススタディの方法を学ぶ。

科目目標　：1. 看護研究の基礎的知識が理解できる。
2. 実践した看護を振り返り、ケーススタディとしてまとめることができる。

| 講義回数 | 学　習　内　容 | |
|---|---|---|
| 1～2回 | 1.「研究の基礎」の復習 | 1)研究の意義<br>2)研究の方法<br>3)研究計画書作成方法 |
| | 2. ケーススタディの進め方 | 1)ケーススタディとは<br>2)ケーススタディの構成 |
| 3～5回 | 3. ケーススタディの実際 | 1)研究計画書の作成<br>2)論文作成<br>3)抄録作成<br>4)発表原稿作成<br>5)資料作成 |
| 6回 | 4. 看護学生研究学会参加 | 1)発表参加 |
| 7～8回 | 5. 研究発表 | 1)発表<br>2)評価 |
| 評価 | 論文内容　研究発表　面接 | |
| テキスト | 系統看護学講座　別巻　看護研究　(医学書院) | |
| 備考 | 東京都看護協会　看護学生看護研究学会参加 | |

| 科目名 | 講　師 | 霧生　緑 | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 統合演習 | | | 時間数 | 15 |

科目目的　：　複数患者の疾患を理解し優先順位を考えた看護計画を立案し、実践できる。

科目目標　：　1. 臨床場面で遭遇する対象の状況を理解できる。
2. 複数患者の優先度を判断し、タイムマネジメントを考えた看護援助を実施できる。
3. 統合実習に向けた自己の課題がわかり、統合実習をイメージできる。

| 講義回数 | 学　習　内　容 | |
|---|---|---|
| 1回 | 1. 統合演習の概要 | 1）　演習内容と演習方法<br>2）　事前学習提示<br>3）　模擬患者　事前学習<br>事例患者1: 事前に提示<br>事例患者2:事前に提示 |
| 2～3回 | | 4）　症状アセスメントと看護技術<br>(1)事例提示された症状をもつ患者の観察と症状アセスメント<br>(2)看護実践の具体策 |
| 4～6回 | 2. 統合演習の実際 | 1）　看護の実際<br>(1)事例患者1、事例患者2の優先順位を考え援助の一部展開・実施 |
| 7～8回 | 3. 演習発表 | 1）　グループ発表<br>(1)チームメンバーと連携しながら実践した看護を振り返ることができる。 |
| 評価 | 課題レポート　　演習・発表態度 | |
| テキスト | 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院）<br>系統看護学講座　専門分野　基礎看護学2（医学書院）<br>ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーヴェルヒロカワ）<br>ゴードン　看護診断マニュアル　原著第11版　機能的健康パターンに基づく看護診断（医学書院） | |
| 備考 | | |